

市民リポーター
西巻 弘光さん

にしまき ひろみつ
美園町在住。67歳。
室蘭市出身。元小・中学校の教員。自らも観光ボランティアガイドを務め、観光客とのふれあいを大切にしている。



平成14年5月、中国広州市と『友好交流促進都市』盟約の署名が行われました。観光・経済・文化・スポーツなどの幅広い交流が期待されます。

ことばの壁を越えて

登別温泉を訪れる外国人観光客をサポートする人びと

国際観光レクリエーション都市を標ぼうする登別市。

近年、外国人観光客が増え、温泉街は賑わいを見せる一方で、ことばの問題や生活習慣の違いなどの課題が生じています。今回は課題を超え暖かい対応を行っている方を訪ね、日ごろの心がけやエピソードなどをレポートしました。

北海道の魅力をもっとPRしてきた努力が実り始めました

「東南アジアからの観光客が『白い花を見て感動した』と言ったら、何のことだと思いませんか」と切り出してくれたのは登別温泉の老舗ホテルで総支配人を務める山岡孝之さん。
「実は樹木に着いた雪のことなんですよ」とにっこり。
「雪を見たこともない方が多いので『吹雪に出会うにはどこに行けばいいか』などと聞かれて困る



山岡 孝之さん

こともありません。私も以前から登別には温泉だけでなく美しい自然もあると、アジア諸国にPRしてきました」と他に先駆け外国人誘客に奔走した日々を振り返ります。



あたたかい出迎え

一緒に風呂に入る習慣がないからです。特に若い女性は恥ずかしがり、大きなバスタオルで体全体をすっぽりと包んだまま湯の中に入って、周りの方を驚かせることがあります。そんな時は浴室係の女性が彼女たちと一緒に風呂に入って歓談しながら、日本の入浴マナーを知ってもらうこともあります」と外国人観光客の増加を喜ぶ一方で、新たに生じた課題にも的確に対応しています。

「『日本食は美食』と言う評判があり、ホテルの食事は好評をいただいておりますが、お客さんにまちの雰囲気も味わってもらったり買い物を楽しんでもらいたいので、まちの大衆食堂で、日本人に混じって食事を楽しまれることも薦めています」

けがをさせないよう緊張感を持って対応しています

「香港、台湾、シンガポールの方は、スキー体験を本当に喜んでくれます。スキーだけでなく構でも滑るたびに『キヤーキヤー』と